

テキスト ヨハネによる福音書 20章19～23節
子どもと親のカテキズム 問34, 35
参考教理問答 ウェストミンスター小教理問答 問29～31

〈聖書テキストの解説〉

【週の初めの日の夕方】

復活の主イエス・キリストが弟子たちに、その復活の姿を現わされたのは、週の初めの日の夕方でした。

週の初めの日の朝早くに、十字架におかかりになり、死んで、葬られた主イエス・キリストは復活されました。その同じ朝早くに、女性の弟子たちに、復活の主イエス・キリストはご自身が復活されたことをお示しになりました。その女性の弟子たちは、恐れつつも喜びに満たされて、男性の弟子たちにその復活の出来事を知らせました。

エマオに向かう二人の弟子たちにも、復活の主イエスは共に道を歩まれつつ、ご自身を現わされました。これも週の初めの日の午後、夕暮れ近くのことです。

主の復活の事実をいくつかの場面で、復活の主イエス・キリストは弟子たちに現わされましたが、弟子たちがあつまっているそのただ中にご自身を現わされたのは、その週の初めの日の夕方でした。週の初めの日の朝から夕方にかけて何度も、ご自身が復活されたことを主はお示しになりました。でも、決定的にお示しになったのは、その日の夕方、弟子たちが一つの家の部屋に集まっていた時でした。

こうして、週の初めの日に、しかもその夕方に複数の弟子たちが集まっているただ中にご自身の復活の御姿を現わされることにより、復活の事実を決定的にお示しになりました。

【ユダヤ人たちを恐れて】

弟子たちはユダヤ人たちを恐れて、部屋に鍵をかけて隠れるようにして、その時を過ごしていました。主イエスの十字架、死、葬りという事実が、彼らの心に恐怖を生んだからです。恐ろしいまでの厳粛な事実を弟子たちは目の当たりにしたので

す。それが、主の十字架、死、葬りという事実でした。その恐怖の中で、ユダヤ人たちが自分たちをも捕まえに来るのではないかという恐怖に包まれて、鍵をかけた部屋にみんな隠れて過ごしていました。

【あなたがたに平和があるように】

恐怖のただ中に弟子たちが置かれていることを、復活の主イエス・キリストはよくご存じでした。ですから、弟子たちのただ中に現れられたとき、すぐにこうおっしゃいました。

「あなたがたに平和があるように」と。

この挨拶はユダヤ人たちの通常の挨拶でもあります。「ご機嫌いかがですか。お元気ですか」というごく一般的な挨拶です。でも、ご自身の手とわき腹とをお見せになったのち、再びおっしゃいました。「あなたがたに平和があるように」と。

ですから、単なる挨拶以上に、「あなたがたに平和があるように」という言葉には、弟子たちに平和、平安、喜びを与える力がありません。

復活の主イエス・キリストが、あの十字架にかかって、死んで、葬られた御方であることを、弟子たちは、その傷を見ることによって確認されました。その御方が今日の前におられる。そして、「あなたがたに平和があるように」と言って御自身の復活の御姿を現わしておられる。その事実に触れ、弟子たちは喜びました。

イエス様の復活のお体は、不思議な体です。鍵をかけた部屋のただ中に入ってくることのできる不思議な体です。でも、触ることもできる体ですから、幻のような体ではありません。エマオにいらしたかと思うと直ちにエルサレムに現れることができる栄光の復活の御体です。

【聖霊を受けよ】

復活の主イエスは、弟子たちに息を吹きかけ、

「聖霊を受けなさい」とおっしゃいました。もちろん、最終的に聖霊が天から送られ、弟子たちが聖霊に満たされるのは、五旬祭の日、すなわち、ペンテコステの日です。しかし、その日が来る前に、復活の主イエスは、聖霊が送られ、弟子たちが聖霊に満たされて、復活の主と共に働くことを予告されます。

【主イエスから送られてくる聖霊】

主イエスから、その聖霊は送られてくることをここで主は教えておられます。ヨハネ14:16,17で、主はこうおっしゃっています。「わたしは父にお願いしよう。父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてください。この方は、真理の霊である」と。また14:18では、「わたしは、あなたがたをみなしごにはしておかない。あなたがたのところに戻って来る」ともおっしゃっています。父と御子から送られて来る聖霊は、見えざる聖霊というお姿で、再び弟子たちのところにいらっしゃる、イエス様そのものでもあるのです。息を吹きかけ、聖霊を受けよ、と主がおっしゃったのは、聖霊はご自分から送られてくること、さらには、聖霊とはご自分の息、ご自分そのものであられることを示しておられます。

【弟子たちの使命】

聖霊を受けよと、息を吹きかけられた弟子たちですが、二つの使命が言い渡されています。

一つは、「わたしもあなたがたを遣わす」という派遣される使命です。

もう一つは、「だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される」という、罪の赦しを伝え、信じる者に罪の赦しを宣言する使命です。

この使命はキリスト者個々人に与えられているものであると同時に、教会に与えられている使命であると考えられます。

この使命については、復活の主イエスは、ルカ福音書24:46以降でもこう言われています。

「次のように書いてある。『メシアは苦しみを受

け、三日目に死者の中から復活する。また、罪の赦しを得させる悔い改めが、その名によってあらゆる国の人々に述べ伝えられる』と。エルサレムから始めて、あなたがたはこれらのことの証人となる。わたしは、父が約束されたものをあなたがたに送る。高い所からの力に覆われるまでは、都にとどまっていなさい」。

私たちが主イエスから頂いたものは、罪の赦しです。罪赦されて、父なる神様との間柄が回復され、永遠に父子の間柄の中を生き続ける、永遠の関係・交わりが与えられました。それを私たちは、「罪の赦しと永遠の命」と、表現しています。

「罪の赦しと永遠の命を与えるために世に来て、十字架にかかり、死んで葬られ、三日目に死人のうちから甦られた、このイエス様ご自身を証言する力を、聖霊によって与える」。そのようにイエス様は約束されました。聖霊を受けた私たち、出て行って、「イエス様による罪の赦し・体の甦り・永遠の命を信じます」というメッセージを伝える。これが、私たちキリストの教会に与えられている使命です。教会は、この使命に応えるものとなり、全世界にこの使命を伝える者となる。これがイエス様の御約束です。使徒言行録1:8で、こう主はお約束されています。

「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたし（イエス）の証人となる」。

〈黙想〉

キリストの教会とそれにつながる、私たち一人一人は、聖霊を受け、身近なところから始まって、世界中に出て行って、イエス・キリストの福音を伝える者とされています。この使命に生きる時、教会は、また、それにつながる私たち一人一人は、存在の意義を発揮し、輝かすことができます。出て行って、「罪の赦しと永遠の命を受けなさい」と、十字架と復活の主イエス・キリストを証しする者となりましょう。 (芦田高之)

テキスト ヨハネによる福音書 20章19～23節
子どもと親のカテキズム 問34, 35

【単元のねらい】

聖霊を受けたわたしたちキリストの教会は、十字架につけられ、死んで、葬られ、三日目に死人のうちから甦られた、復活の主、イエス・キリストを証言する者です。

この使命に応じて生きる者となることを伝えたい。

聖霊を受けなさい

【週の初めの日の夕方】

週の初めの日の朝早くに、十字架におかかりになり、死んで、葬られた主イエス・キリストは復活されました。その同じ朝早くに、女性の弟子たちに、復活の主イエス・キリストはご自身が復活されたことをお示しになりました。その女性の弟子たちは、恐れつつも喜びに満たされて、男性の弟子たちにその復活の出来事を知らせました。

でも多くの男性の弟子たちは、女性の弟子たちの言うことを信じられませんでした。そんな男性の弟子たちも集まっているところに、イエスさまは、復活の御姿を現わされたのです。

そのとき、弟子たちはユダヤ人たちを恐れて、部屋に鍵をかけて隠れていました。主イエスの十字架と死を目の当たりにした弟子たちは、恐怖の思いでいっぱいになっていたからです。

【あなたがたに平和があるように】

そのように恐怖のただ中に弟子たちが置かれていることを、復活の主イエス・キリストはよくご存じでした。ですから、弟子たちのただ中に現れたとき、すぐにこうおっしゃいました。

「あなたがたに平和があるように」と。

この挨拶はユダヤ人たちの通常の挨拶でもあります。でも、ご自身の手とわき腹とお見せになったのち、再びおっしゃいました。「あなたがたに平和があるように」と。

ですから、単なる挨拶以上に、「あなたがたに平和があるように」という、復活のイエスさまの

言葉は、弟子たちに平和、平安、喜びを与えました。

イエス様の復活のお体は、不思議な体です。鍵をかけた部屋のただ中に入ってくるのできる不思議な体です。でも、触ることもできる体で、幻のような体ではありません。エマオにいらしたかと思うと直ちにエルサレムに現れることができる栄光の復活のお体です。

【聖霊を受けよ】

弟子たちに現れてくださった、復活の主イエスは、弟子たちに息を吹きかけ、「聖霊を受けなさい」とおっしゃいました。もちろん、最終的に聖霊が天から送られ、弟子たちが聖霊に満たされるのは、五旬祭の日、すなわち、ペンテコステの日です。しかし、復活の主イエスは、聖霊が送られ、弟子たちが聖霊に満たされて、復活の主と共に働くことをあらかじめ予告されます。

ここでイエスさまがお教えになりたいことは、主イエスさまから、その聖霊は送られてくることです。ヨハネ14:16,17で、主はこうおっしゃっています。「わたしは父にお願いしよう。父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてくださる。この方は、真理の霊である」と。また14:18では、「わたしは、あなたがたをみなしごにはしておかない。あなたがたのところに戻って来る」ともおっしゃっています。父と御子から送られて来る聖霊は、実は、目に見えない聖霊というお姿で現れるイエスさまなので

す。

【弟子たちの使命】

聖霊を受けよと、息を吹きかけられた弟子たちには、二つの使命が与えられました。

一つは、「わたしもあなたがたを遣わす」という派遣される使命です。もう一つは、「だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される」という、罪の赦しを伝え、信じる者に罪の赦しを宣言する使命です。この使命はキリスト者個々人と、教会に与えられている使命です。

この使命については、復活の主イエスは、ルカ福音書24:46以降でもこうおっしゃっています。

「次のように書いてある。『メシアは苦しみを受け、三日目に死者の中から復活する。また、罪の赦しを得させる悔い改めが、その名によってあらゆる国の人々に述べ伝えられる』と。エルサレムから始めて、あなたがたはこれらのことの証人となる。わたしは、父が約束されたものをあなたがたに送る。高い所からの力に覆われるまでは、都にとどまっていなさい。」

私たちが主イエスから頂いたものは、罪の赦しです。罪赦されて、父なる神様との間柄が回復され、永遠に父子の間柄の中を生き続ける、永遠の関係・交わりが与えられました。それを私たちは、「罪の赦しと永遠の命」と、表現しています。

「罪の赦しと永遠の命を与えるために世に来て、十字架にかかり、死んで葬られ、三日目に死人のうちから甦られた、このイエスさまご自身を証言する力を、聖霊によって与える」。そのようにイエスさまは約束されました。

【教会の使命】

出て行って、「イエスさまによる罪の赦し・体の甦り・永遠の命を信じます」というメッセージを伝える。これが、私たちキリストの教会に与えられている使命です。教会は、この使命に応えて、

全世界にこの使命を伝える者となる。これがイエスさまの御約束です。使徒言行録1:8で、こう主はお約束されています。「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたし（イエス）の証人となる」と。

【世界の果てまで】

キリストの教会とそれにつながる、私たち一人一人は、イエスさまから聖霊をいただいています。聖霊という見えない姿のイエスさまが、私たちのうちに住んでくださっています。

そんな私たちは、私たちの身近なところから始まって、世界中に出て行って、イエス・キリストの福音を伝える者とされています。

近い所では、まずおうちからです。おうちの中にまだイエスさまのことを信じていない人がいたら、伝えてあげましょう。「私がイエスさまを信じるのは、私の罪が赦されるためなの。罪が赦されると、安心して天地の造り主である父なる神様にお話ができるようにされるの。罪赦されて、いつまでも神様の子どもにされるからなの。病気になっても、何か失敗しても、死ぬ時が来ても、死んだ後でも、イエスさまによって、父なる神様と私の親子関係はずっと続くの。だから私は、イエスさまを私の救い主として信じているの」と。

もう少し離れたところでは、学校のお友だちにもそのことを伝えてあげましょう。そして、もっと大きくなったら、日本の中だけでなく、世界中に出て行って、このことを伝えてあげましょう。そのために私たちは、イエスさまを信じて、イエスさまから聖霊をいただいています。目に見えない聖霊という姿のイエスさまが私たちのうちに住んでいて、「罪の赦しの福音を世界中に知らせなさい」と励ましてくださっています。（芦田高之）

【今週の暗唱聖句】 ヨハネによる福音書 20章21～23節

父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。

……聖霊を受けなさい。だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。

ヨハネによる福音書 20章19～23節を読みましょう。

1. そのひとはなんようびですか？

2. でしたちはなぜユダヤ人をこわがっていたのでしょうか？

3. そこへイエスさまがあらわれて何といわれましたか？

4. でしたちはイエスさまにお会いしてどうおもいましたか？

5. イエスさまはでしたちにいきをふきかけてくださいました。そのいきとは何ですか？

6. イエスさまがあたえてくださったしめいは何ですか？ (2つ)

ヨハネによる福音書 20章19～23節を読みましょう。

1. その日（週のはじめの日）とは何曜日ですか？

2. 弟子たちはなぜユダヤ人を恐れていたのですか？

3. そこへイエス様が現れて何と言われましたか？

4. 弟子たちはイエス様にお会いしてどう思いましたか？

5. イエス様は弟子たちに息を吹きかけてくださいました。それは何だと書かれていますか？

6. イエス様が与えてくださった使命は何ですか？（2つ）